



東日本大震災・東京電力福島第1原発事故から10年。
避難を余儀なくされた
「こうた一家」が再びふくしまへ。
こうたにとってふくしまは未知の世界だった。

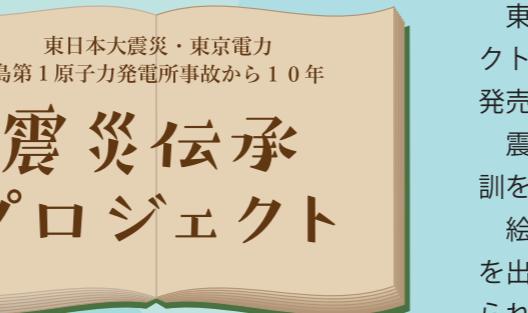
ぼくのうまれたところ、 ふくしま

作・絵 松本春野

2021年7月31日発売

出版：福島民友新聞社 制作協力：東日本大震災・原子力災害伝承館 定価：1,650円（税込）

■震災伝承プロジェクト賛同社 クリナップ株式会社、こくみん共済 coop(全労済)福島推進本部、株式会社リオン・ドール コーポレーション、東北労働金庫福島県本部、株式会社ヨークベニマル



浜通り

- [相馬市] 広文堂書店
- [いわき市] ヤマニ書房本店
- ヤマニ書房エブリア店
- ヤマニ書房湯本店
- ヤマニ書房イオンいわき店
- ヤマニ書房ラトブ店
- 鹿島ブックセンター

会津

- [会津若松市] 岩瀬書店会津若松駅前店
- TSUTAYA 会津アピオ店
- TSUTAYA 神明通り店
- [会津坂下町] TSUTAYA 坂下店
- [猪苗代町] TSUTAYA 猪苗代店
- [喜多方市] TSUTAYA 喜多方西店
- [南会津町] 南屋書店

中通り

- [福島市] 西沢書店大町店
- 西沢書店北店
- 岩瀬書店八木田店 プラスゲオ
- 岩瀬書店ヨークベニマル福島西店
- [川俣町] 岩瀬書店福島駅西口店
- 岩瀬書店鎌田店
- みどり書房福島南店
- [郡山市] ジュンク堂書店郡山店
- 岩瀬書店富久山店 プラスゲオ
- みどり書房桑野店
- みどり書房イオンタウン郡山店
- [白河市] みどり書房白河店
- [二本松市] みどり書房二本松店
- [須賀川市] TSUTAYA 須賀川東店
- [川俣町] TSUTAYA 川俣店
- [本宮市] TSUTAYA 本宮店
- [田村市] TSUTAYA 船引店
- [棚倉町] TSUTAYA 棚倉店

福島民友新聞社本社、福島民友新聞販売店、東日本大震災・原子力災害伝承館でも販売しております。

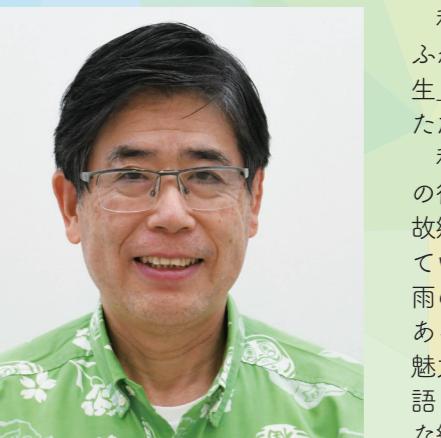
福島民友新聞社本社での販売は、平日午前10時～午後5時となります。

◎お問い合わせ 福島民友新聞社 営業局 企画推進部 TEL024-523-1459 (平日午前10時～午後5時)



絵本作家 松本 春野さん

まつもと・はるの 1984(昭和59)年生まれ。東京都出身。多摩美術大学、絵本作家。近著に「ねずみのリンのフィギュアスケート」。東日本大震災後には、「地震の夜にできること」や、原発事故後の母子避難と帰還を描いた「ふくしまからきた子」「ふくしまからきた子 そつぎょううなどを出版。2017(平成29)年に猪苗代町にアトリエ兼住居を構え、都内と同町に行き来する。



東日本大震災・原子力災害伝承館

職員・語り部(元双葉町立双葉南小学校長)

泉田 淳 (いずみた じゅん)さん

東日本大震災・原子力災害10年目に、福島の状況を真摯に伝え続けてきた地元メディア福島民友新聞社と共に、震災伝承プロジェクトとして、語り部の話を基に「避難と帰還」を描いた物語を描きました。

この絵本の主人公こうたは、震災の年に生まれた10歳の少年です。東日本大震災・原子力災害のため、県外への避難を余儀なくされたこうた一家は、姉の進学に伴い10年ぶりに福島へ。

震災の記憶もなく、福島への馴染みもないこうたは、複雑な思いを抱えて引っ越してきましたが……

こうたのような今の子どもたちにとって、ましてや、福島県外に住む子どもたちにとっては、「東日本大震災・原子力災害に見舞われた福島」は未知の土地だと思います。

この絵本を通して、読者の子どもたちが、こうたやこうたの家族の気持ちを想像しながら、福島について周りと意見を交わすきっかけになってくれれば幸いです。

福島県内でも、被災の形はさまざまです。一つの物語を描くことで、描ききれないものが一つ一つあぶり出され、悔しい気持ちもありました。

どんなお話を伺っても当事者の体験は追体験できません。他者の物語であることを忘れずに、それを題材として扱うことに恐れを持ながら、この作品に向かい合いました。

私が描けなかったお話の数々は、きっとこの福島で暮らす皆さまこそが語り継げる物語です。震災伝承プロジェクトが世代を超えて広がっていくことを願っています。

私は、福島県の元小学校教員です。38年間の教員生活で数多くの個性あふれるかわいい子どもたちと出会うことができました。子どもたちは私を「先生」と呼んで、取り柄がなかった私を少しずつ育ててくださいました。今は、ただただ、感謝の気持ちでいっぱいです。

私の教員生活終盤の9年間余りは、子どもたちも私も、東日本大震災その後の避難生活に翻弄される毎日でした。そんな中にあっても、「復興とは故郷の人々に笑顔が戻ることだ」とテレビ局の急な取材にも胸を張って答えていたI君。「今度は僕たちが困っている人たちを助ける番だ」と西日本豪雨の被災者に対する募金活動を立ち上げたR君。「僕には二つのふるさとがあって幸せだ」と度重なる転校の経験をもポジティブに捉え直したR君など、魅力的な子どもたちの素晴らしい出会いがありました。このような体験を語り部活動の中でお話ししたことが作者の松本先生の目に留まり、この素敵なお絵本の制作に結びついたそうです。

子どもたちは、傷つきやすく繊細です。しかし、その一方で、この絵本の主人公のように、私たち大人が思うよりも、ずっと思慮深く、勇気ある存在なのだと思います。

私は、この未曾有の災害をくぐり抜けてきた子どもたちこそが、明るく素晴らしい未来を、そして日本をつくっていってくれるものと固く信じています。どうか、この絵本を手にした皆さんも私と一緒に若者にエールを送ってみませんか。

YouTubeの
福島民友新聞チャンネルで
松本さんが本作品への思いを
語った動画を公開しています。

9月に東日本大震災・原子力災害伝承館で「ぼくのうまれたところ、ふくしま」の発売を記念したイベントを開催します。イベントでは本作品の原画展や松本さんのトークショーなどを予定しています。詳細は後日紙面でお伝えします。



(31日以降は福島民友新聞チャンネル内
動画一覧からも視聴できます)